

10th Anniversary

高千穂郷・椎葉山地域
10年間の歩み



世界農業遺産
高千穂郷・椎葉山地域

GIAHS Takachihogo - Shiibayama

高千穂郷・椎葉山の 山間地農林業複合システム

- ・高千穂町 日之影町 五ヶ瀬町 諸塚村 椎葉村
- ・フォレストピア構想（昭和62年～）が連携の礎
- ・土地の92％が森林、耕地は3％
- ・人口約20,000人



世界農業遺産
高千穂郷・椎葉山地域
GIAHS Takachihogo・Shiibayama

平成27年12月15日 世界農業遺産認定

- ・ 私たちの日々の当たり前の暮らしそのものが、
国際的かつ学術的に認められた証
- ・ 認定の鍵は、地域コミュニティの結束力



地域内における 普及啓発活動

- ・ 世界農業遺産の普及啓発を目的とした
セミナーやイベント等の開催
(認定直後の4年間で合計22回開催)
- ・ 5町村の全中学校が集う「世界農業遺産
中学生サミット」も開催



認定後の取組（育てる）



世界農業遺産連携協定（平成28年度締結）

- ・ 地域に自信と誇りを持てる人材を育成する
- ・ 地域の価値を学術的な視点で明らかにする

GIAHSアカデミー（平成29年度～）

世界農業遺産に認定された高千穂郷・椎葉山地域について学び、発見し、発信する

宮崎大学 GIAHS 研究会による 調査研究

- ・世界農業遺産連携協定の枠組みに基づき、調査研究を支援
- ・毎年約10のテーマにて調査研究を実施

研究テーマの例

農林業複合経営の実態把握

山腹用水路の多様性に基づく地域特性

コロナ禍が神楽祭りに与えた影響

乾シイタケ生産の実態に関する研究

狩猟システムと山の神儀礼の実態把握

集落機能維持に向けた活動や組織の継続要因

モザイク林相の定量的分析

在来作物遺伝資源の収集



パワーフードウィーク

宮崎市内のスーパー(ラディッシュ大橋店)の協力のもと、魅力発信事業「パワーフードウィーク」を開催。本地域内の農産物を使用した惣菜やパン等の販売、及び本地域内の事業所による店頭販売を行っている。（令和2年度に初開催し、現在も継続開催中）



GIAHS スタディツアー

FAO駐日連絡事務所が実施する、「開発途上国における世界農業遺産人材育成事業」の一環として、令和3年度にペルー及びコロンビアの駐日大使館関係者の視察「GIAHS Study Tour」を本地域において受け入れた。

第2期保全計画（令和2年度～6年度）

指標	数値の推移
農林業新規就業者数	年平均22人（H30～R5）
世界農業遺産認知度	小中高校生 95％ 一般住民 83％
神楽保存会団体数	97団体（R1）→ 97団体（R5）
焼畑火入面積	110a（H30）→ 200a（R5）
農業産出額	111.5億円（H29）→ 96.3億円（R4）
農地面積減少率	-2.76％（H25～H30）→ -3.40％（H30～R4）

※第2期保全計画に記載の指標より一部抜粋



世界農業遺産 地域活動支援事業

- ・世界農業遺産をテーマにした活動に補助金（上限30万円）を交付
- ・過去3年間で23団体に合計約600万円を交付（令和5年度～7年度）

交付決定事業の例

神楽の調べを未来につなぐ、篠笛ワークショップ

集落共同活動への参画PR動画作成事業

秋のGIAHS収穫祭

西臼杵放牧のある風景支援事業

「尾戸の口棚田」体験交流会

釜炒り茶のブランド力強化事業

日本ミツバチはちみつ販売事業

英語版ホームページ作成

認定後の取組

農業遺産

オフィシャルサポーター制度

- ・ 農業遺産地域と企業が協働する取組を推進する制度で、農林水産省が令和7年度から試験的に運用中
- ・ 宮崎梅田学園株式会社様が登録済み
高千穂町において米と釜炒り茶を生産



第3期保全計画（令和7年度～11年度）

指標	現状値	目標値（R11）
農業産出額	96.3億円	91.8億円
中山間地域等直接支払集落協定面積	2,248ha	2,068ha
肉用牛の飼育頭数	9,980頭	9,581頭
シイタケ生産者の戸数	627戸	596戸
農林業新規就業者数（年平均）	22人	28人
ふるさと納税の金額（農産物関連）	550百万円	706百万円
小中高生における世界農業遺産の認知度	74%	100%
自治公民館への加入率	86.8%	86.8%

※第3期保全計画に記載の指標より一部抜粋



For the Next 10 Years

自然と共に生きる、 誇りを受け継ぐ地域

可能性を広げる種をまき
たくましさを生む根を張り
次世代を担う芽を育てる

